

## ◇本校の研究

### I 研究の概要

#### 【児童の実態】

- ・明るく素直で、全体として落ち着いた雰囲気である。
- ・国語や読書、英語活動を好む。
- ・学力、体力、生活態度、学習意欲等に個人差が見られ、それぞれに特別な配慮や支援を要する児童が多い。
- ・自分の考えを説明したり、感想等を書いたりすることに苦手意識がある。

#### 【めざす子供の姿】

- ・自分夢に向かって進める子
- ・学んだことを活かせる子
- ・健康で明るく生き抜く子

#### 【学校教育目標】

豊かな心を持ち、たくましく生き抜く子供の育成

#### 【国語科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

#### 【国語科における児童の実態】

- ・読書活動を進んで行う。
- ・自分の考えや感想を共有することに、意欲をもって取り組む。
- ・伝えたいことを言葉や文章で表すことが苦手。（語彙力）
- ・初めての文章では、問いに対する答えを読み取ることが苦手。（読む力）
- ・読み取ったことを基に、自分の考えを書くことが苦手な児童がいる。（書く力）

#### 【未来を生き抜くために 必要な力】

- ・自ら考え、行動する力
- ・豊かな想像力と発想力
- ・課題を解決し克服する力

#### 【国語科がめざす子供の姿】

- ・目的意識をもって教材文を読み、考えたことや学んだことを進んで表現できる子
- ・表現することのよさや楽しさを味わいながら、自ら課題を解決できる子

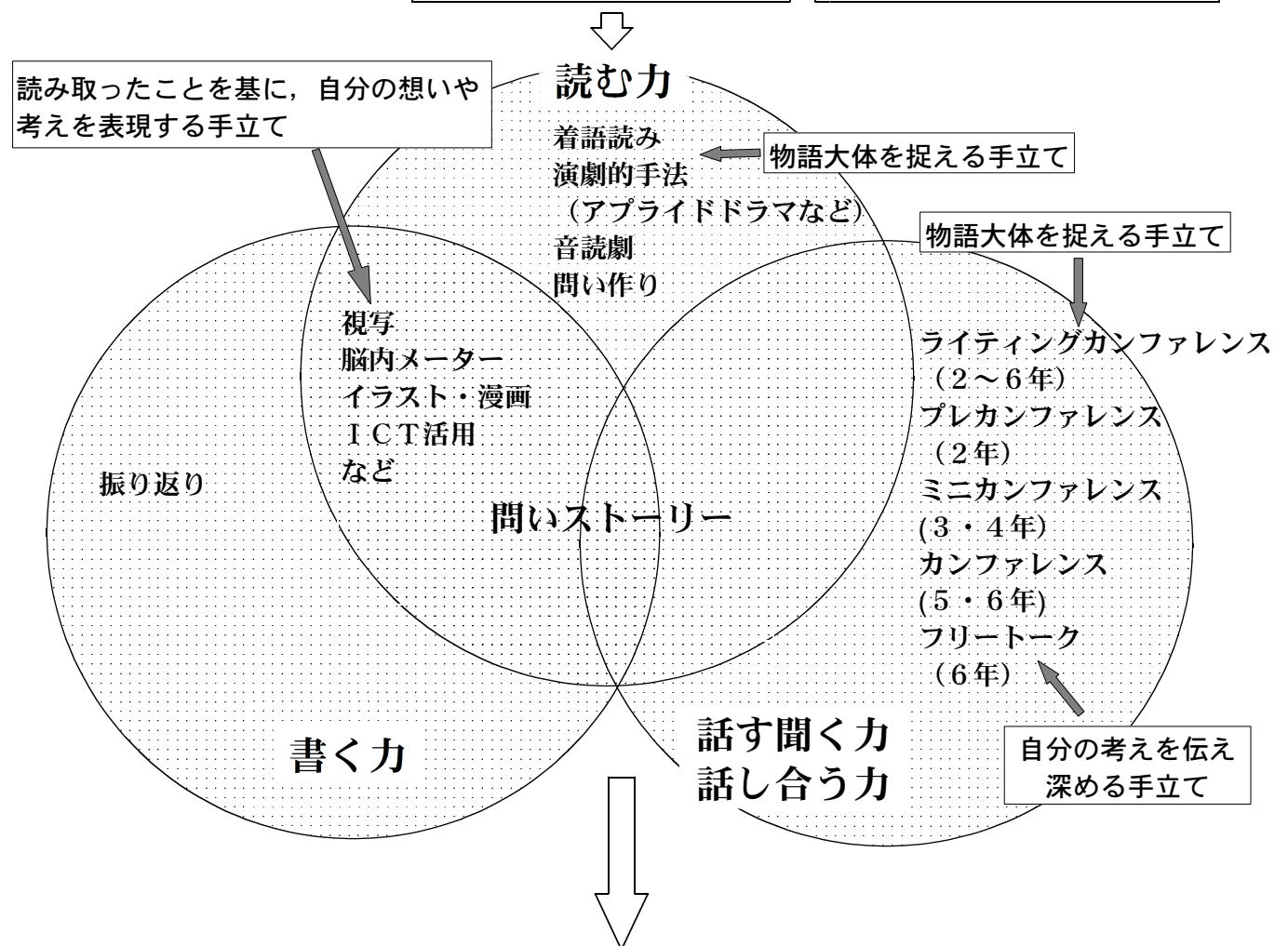
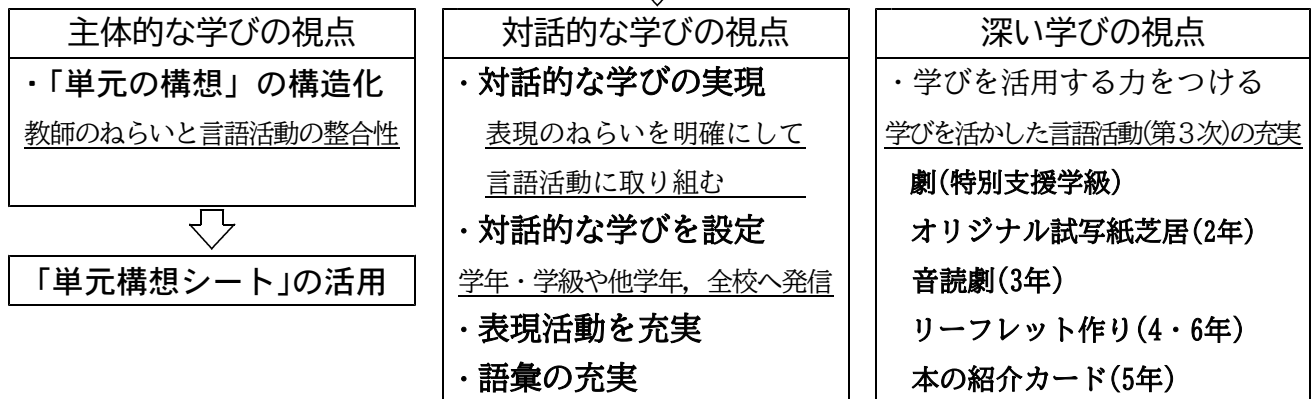
#### 【研究主題】

自分の想いを表現できる子供をめざして

## II 研究構造図

### 【研究の視点】

主体的，対話的で深い学びを通して，子供たちの表現力を伸ばしていく



### 【評価方法】

- ・ノート・ワークシート・児童の作品・児童の発言
- ・話し合い (全グループの発言を聞くことができないため振り返りで評価)

III めざす子供の姿（ひまわり学級は、個別の指導計画にもとづいて設定）

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
話 す こ と ・ 聞 く こ と	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相手に応じて、伝わるように話すことができる。</li> <li>2 相手の話を興味・関心をもって最後まで聞くことができる。</li> <li>3 話題に沿って話し合うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相手や目的に応じて、筋道を立てて話すことができる。</li> <li>2 話の中心に気をつけて聞き、感想をもつことができる。</li> <li>3 互いの考えの共通点や相違点を考え、話し合うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことなどを的確に話すことができる。</li> <li>2 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめることができる。</li> <li>3 互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。</li> </ol>
書 く こ と	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の考えをもって書くことができる。</li> <li>2 語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。</li> <li>3 書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事柄の区切りや中心を考えて書くことができる。</li> <li>2 段落相互の関係に注意して書くことができる。</li> <li>3 書いた文章を互いに読み合い、よりよい表現に書き直すための意見を伝え合うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる。</li> <li>2 文章の構成を考えて書くことができる。</li> <li>3 書いたものを発表し合い、表現の仕方について助言されたことを活かすことができる。</li> </ol>
読 む こ と	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 時間的順序を考えながら内容の全体を読むことができる。</li> <li>2 登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。</li> <li>3 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。</li> <li>4 楽しんで読書することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中心となる語や文をとらえて、叙述に即して、筋道を押さえ内容を読むことができる。</li> <li>2 人物の性格や気持ちや場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に想像して読むことができる。</li> <li>3 内容の中心や場面の様子がよくわかるように音読することができる。</li> <li>4 目的に応じて、幅広く読書することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的に応じて、文章の内容や要点を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。</li> <li>2 登場人物の描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えを明確にして読むことができる。</li> <li>3 自分の思いや考えが伝わるように音読することができる。</li> <li>4 必要な情報を集めるために、目的に応じた複数の本を選んで読書することができる。</li> </ol>

## IV 具体的な取組

### ◇研究の視点『主体的・対話的で深い学びを通して、子供たちの表現力を伸ばす』

子供たちが迎えるこれからの社会は、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手が求められている。このような時代を生き抜くためには、子供たち自ら課題を見つけ、解決していく学習、自分の興味や実態に合わせた学習、伝え合う活動を通して、自他共に考えを高め合う学習が大切である。

そこで、本校では、「自分の想いを表現できる子供をめざして」という研究主題を追及する中、「主体的・対話的で深い学び」という視点に立ち、今年度は、表現力を高めるために「書くこと」に焦点をあて、これまで以上に表現方法を広げるよう取り組んでいる。

#### 【主体的な学びの視点から】

子供が主体的に学び続けるには、子供たち自らが学びたいという内発的動機が必要となる。それは、学んだことを自分の中にとどめるのではなく、自分の考えを話したい、友達の考えを聞きたいという主体的な学びを実現していかなければならない。

#### →「単元の構想」の構造化を継続し、教師と児童のねらいのずれを少なくすると共に、学習のゴールを示すことで、見通しを持って主体的な学びを実現する。

単元を構想する際に、教師の思考を整理するための、単元構想をA4用紙1枚にまとめた「構想シート」を作成する。「構想シート」を活用することにより、単元で身に付けさせたい力や教師のねらいと子供のねらいのずれを少なくする。このシートを基にして、単元の学習の流れとゴールを提示し、子供が課題解決学習の見通し(学習計画)をもって学習を進められるようにする。

#### 【対話的な学びの視点から】

対話的な学びが実現するには、子供たちの表現力を高めることが必須である。そのために、子供たちの表現活動の充実を図り、その活動を通して、一人一人の表現力を高めるようにしている。

#### →表現活動を充実させるための具体的手法を取り入れる。

##### 「着語読み」

単元の中で、子供が教材文をできるだけ同じ様に理解して、自分の考えを話し合うために行う。教材文を音読しながら、難しい語句について「～ってどういうことかなあ」と投げかけ、言葉について着目しながら、読み進めていく。

##### 「アプライドドラマ」

演劇的手法で、登場人物になりきり、場面の様子を身体表現する。

着語読みや読み取りの際、アプライドドラマを活用することで、物語の世界に入り、場面の様子を捉えたり、登場人物の心情に触れたりすることができる。

##### 「おおきなかぶ」

登場人物になって人物の心情を表現する



## 「カンファレンス(組織的話し合い活動)」

組織的な話し合いの仕方を指導することにより、グループ内で自分の考えを伝え、友達のことを聞き、話し合えるようにする。「語り」では、必ず一人一人が語らなければいけないので、グループ全員に話す機会ができ、一部の子供だけが話すことがなくなる。互いの考えや意見をしっかりと聞くことができるようになる。

また、国語科だけでなく、他教科での話し合い活動にも取り入れて生かしていくことができるので、いろいろな場面で表現力を高めることができる。

### <ミニカンファレンス3・4年(例)>

- ①語り(1分×3人=3分)時間内は繰り返し語り続ける。聞く方は共感的に聞きメモを取る。
- ②黙考(1分) 主に考えの相違点を探す。
- ③共有(3分) 見つけた相違点について、気軽な雰囲気です話し合う。

### <カンファレンス5・6年(例)>

- ①語り(1分×3人=3分)語り続ける。口を挟まない。共感的に聞く。
- ②黙考(1分) 主に考えの相違点を探す。
- ③語り(1分×3人=3分)
- ④黙考(1分) 主に共有する話題を探す。
- ⑤共有(3分)

### <フリートーク6年>

6年生では、単元や学習内容に応じて、カンファレンスを選んだり、形にとらわれなくて、フリートークをしたりできるようにしていく。

## 「ライティングカンファレンス」

言語活動として作ったリーフレットなどの作品を友達の質問によって、自分で振り返っていく。そうすることで、自分の作品の良さや改善点などに気付いていく。

### 質問事項

この作品で最も伝えたいことはどんなことですか。  
なぜ、それをつたえようと思ったのですか。  
そのためには、どんな表現の工夫をしましたか  
その工夫は、うまくいきましたか。  
もう少し、工夫したかったことはありますか。  
私に何か、アドバイスしてほしいことはありますか。

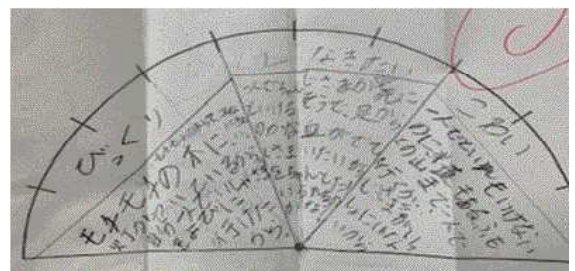


雪は新しいエネルギー

### 脳内メーター」

登場人物の心情を割合で表すことによって、自分の考えをよりわかりやすく表現する。

場面ごとの脳内メーターを比較することで、登場人物の心情が変化していることに気づきやすくなる。

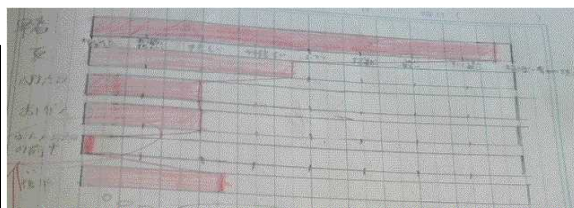


「モチモチの木」豆太の心情を表現

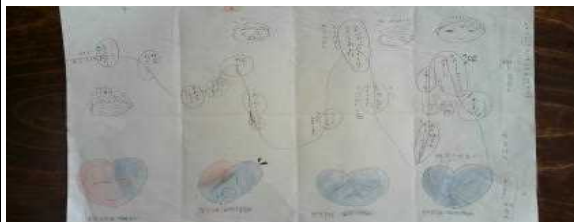
## 「心情グラフ・心情曲線」

物語に登場する人物の心の変容を視覚的に表すツールとして有効であると考えられる。登場人物の心情が「好き」から「嫌い」や、「悲しい」から「楽しい」といった対義語で表現できるような変化があった場合に、その心情の変化をわかりやすく表現することができる。

また、一人一人文章から受ける感じ方が違うため、心情を表現した曲線に差が生まれ、話し合い活動の際に相手の考え方との比較材料になる。そのため、話し合いもしやすい。



「川とノリオ」時間の経過と共に気持ちの変化を表す

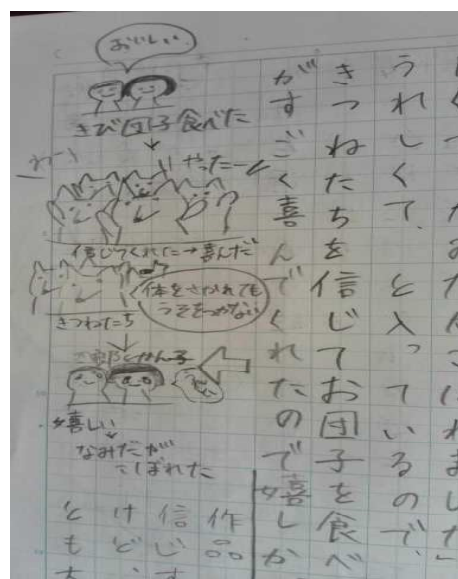
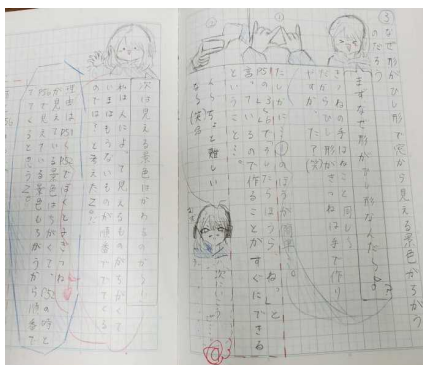
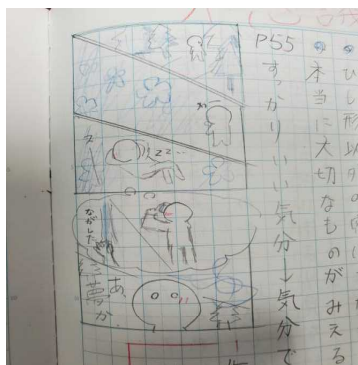


「大造じいさんとがん」大造じいさんの心情変化

## 「イラストや漫画」

自分の考えを言葉や文章で説明することが苦手な子供が漫画やイラストを使うことで表現しやすくなる。

話し合い活動で、聞き手にも視覚的にわかりやすく、伝えたい内容が伝わりやすくなる。



雪わたり問に対する考えを書いたノート

「きつねの窓」問いに対する考えを書いた児童のノート

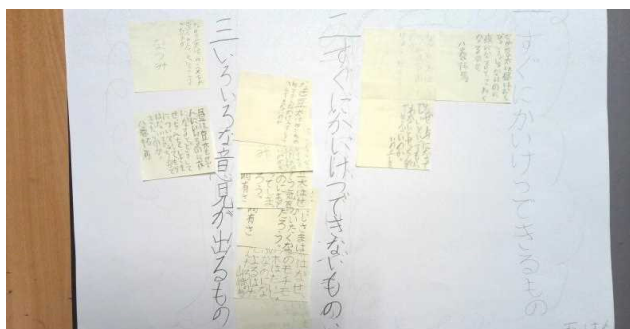
## 「問いストーリー」

子供たち自身で学習に対する問いを立て、問いに対する回答を見つけていく探究的な学習。①一人一人の感想から自分たちで問いを三つに絞る。

②一つの問いに対して、文章から大事なことを読み取り、自分の考えをもつ。

③カンファレンスで自分の考えを話し合う。

こうすることで、自他の考えを広げたり、深めたりすることができる。また、毎時間の最後に、作者の伝えたいこと（「作品の心」）を書くことで、作品の主題に迫れるようにする。



「モチモチの木」問い作り（3観点に当てはめて分類）



問いに関するカンファレンス

## 「視写紙芝居」

視写を取り入れることで、繰り返しのある文章に気付くことができる。また、視写のワークシートは、自分の力に合わせたものを選択でき、無理なく最後まで学習することができる。



穴埋めワークシート



全て視写のワークシート

## 「ICTの活用」

ロイロノートで調べたことや自分の考えをまとめ、友達に見せながら話すことで、伝えたいことがより伝わるようになる。

ディベートやプレゼンテーションでは、相手の意見が視覚的にわかり、自分の意見をもちやすくなる。



「町の行事について発表しよう」

### →語彙の充実を図り表現力を高める。

#### 「語彙表の活用」

身に付けさせたい言葉の一覧表(低・中・高別)を、各子供に用意する。使った言葉をチェックし、言葉を使おうとする意識を高め、感想や意見文を書く際に日常的に活用できるようにする。

### →語彙の充実を図り表現力を高める。

#### 「辞書引き」

2年生より、辞書を一人一冊用意し、辞書を本のように身近に置きいつでも使えるようにする。すぐに辞書の使い方を学習して言葉を引くのではなく、始めは知っている言葉を見つけていく。「いきもの」「たべもの」など、指定された言葉を見つれたり、一文字しりとりや二文字しりとりをしたり等、いろいろな使い方をしながらゲーム感覚で慣れ親しんでいく。

見つけた言葉に付箋をつけ、自分のがんばりを目に見えるようにするのも有効である。



辞書引き

→語彙の充実を図り表現力を高める。

### 「言語環境の整備」

子供の語彙の充実を図り、言葉に対する感性を豊かにする機会を増やすために、学級や廊下の掲示スペースを活用する。

- ・子供の読書活動の関心を高めるもの



先生方のおすすめの本



読みたくなるようなおすすめ文



いつでも読める環境作り

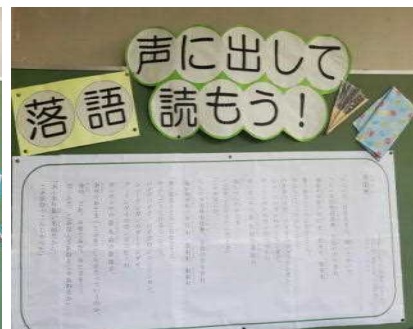
- ・言葉に関するもの



俳句



短歌・和歌



落語「寿限無」

「俳句」は、季語を通して、季節を感じる。落語「寿限無」や短歌・和歌は、教室に入る前に音読することで、落語の楽しさを感じたり、短歌や和歌のリズムを楽しむことができる。子供の作品を飾るなど、1年を通して、活用できる掲示にしている。

### 【深い学びの視点から】

→導入(第1次)・展開(第2次)で習得した内容を、活用(第3次)する力をつける。

単元を通して、深い学びの実現をするためには、活用の場面の充実を図ることが大切である。第1次・第2次で習得した知識や技能を活かす活用場面を、意図的に設定した。また、単元のゴールを導入時に明確に示すことも大切と考え、教師見本を提示することも行ってきた。こうすることより、子供たちの学習がより主体的、対話的になり、少しずつ子供たちの活用する力が身に付いてきた。



「はたらくじどう車」教師見本





1年生「はたらくじどう車」では、第1次・第2次でクイズの文章の構成を学んだ。第3次では、自分が紹介したい「のりものカード」を書き、クイズ形式で紹介し合った。クイズ後、グループの代表を選び、発表することを伝え、一人一人意欲をもって取り組むことができた。



### 【ひまわり学級の取組】

#### のりもの紹介カードを使ったクイズ大会

ひまわり学級(特別支援学級)では、生活単元学習や国語科で自分の想いを伝えるための様々な表現の仕方や方法を学んでいる。

今年度は知的学級「けんかした山」で登場人物の心情を読み取り、音読劇を行った。また、情緒学級では「注文の多い料理店」で宮沢賢治作品の魅力を知り、宮沢賢治作品の紹介を行った。2学級共に読み取りの際は演劇的手法を取り入れ、より場面の様子をイメージできるようにした。また、お面を使って考えた台詞を発表することで、一人一人が意欲をもって取り組むことができた。知的学級の3次では、お昼の放送時間を使って、全校に発表することもでき、相互理解を図ることもできた。



「注文の多い料理店」アプライドドラマ



「けんかした山」音読劇

### 【その他の取組】

#### →昼の放送の音読発表

昼の校内放送で、日頃の音読の成果を学級毎に発表する。教科書教材を中心にして、学習の成果を披露する場とする。上手な音読発表を聞くことで、「様子や気持ちが伝わってくるなあ。」  
「次は、自分が発表したいな。」等、子供の意欲につながっている。

一人一人の読みの力を付けるため、音読指導に継続して取り組んでいる。また、授業の中でも、音読の時間を設け、よりよい読みを確かめ広めていく。

## →読書活動の充実

毎週火曜日の朝の時間(8:25~8:40)を朝読書の時間に設定する。この時間には、教師による読み聞かせや地域ボランティアや保護者による読み聞かせなど、多様な場を設定し、読書活動の充実に努める。

また、朝読書の時間だけでなく、子供の本への興味関心を高めるために、学校司書による読書指導も定期的に行っている。そして、意図的に読書活動を進めるため、学年の廊下に単元の関連図書を置き、子供が本に触れる機会が増えるように工夫している。



学校司書による読み聞かせ

## V R5年度の成果と課題から

### 【成果】

- 着語読みを行うことで、物語の大体を捉えてから学習に臨むことができた。そして感想では、問いをしっかりとち、問い作りでは、内容を理解しているため、深く話し合うことができた。
- 演劇的手法を使って、登場人物の心情を表現することで、物語の場面の様子や登場人物の心情の変化を捉えることができ、読み取りの手助けにもなった。
- 自分の考えをイラストや漫画、図で表現するなど、表現活動を充実させることで、自分の想いや考えをもつ子供が多くなった。また、視覚的に考えが分かるようになるため、聞き手が相手の考えを理解できるようになった。
- 個に合わせた表現方法をいくつか提示することで、子供が自分の興味に合わせた学習を選択することができ、できる喜びを味わうことができた。(個別最適化学習)
- ライティングカンファレンスでは、友達の質問により、自分の作品の良さやもっと工夫したい所などに自ら気付くことができた。また、友達の作品を振り返る際に自分の作品と比較もでき、もっと分かりやすく伝えるためにはどうすれば良いか、後から気付くこともできた。

表現方法の充実、個別最適化学習、系統的に振り返り活動に取り組み

### 【課題】

#### ●カンファレンスが形式的になっている

- ・カンファレンスにおいて、それぞれの考えを聞いた後、相違点について自分の考えをまとめ、一人ずつ語るが、その際に違う点について友達に聞きたいと思っている子供もいる。子供の意欲を止めるのではなく、子供に合わせて、話し合い活動の形式を変えることが必要。
- ・カンファレンスでは、何のために何度も話し合っているか意味を見出せていない子供もいる。自分の考えをより深めたり、広げたりするために話し合い活動を行っているという目的意識をもって取り組むようにしたい。そのため、カンファレンスやフリートークの後に必ず自分の考えを見直す時間を取り、それを伝える時間が必要だ。

#### ●カンファレンスやフリートークでの話の聞き方

- ・話し合いの中で大事な言葉を探し、端的にメモを取りながら聞く力も必要。
- ・日常生活の中で、友達の意見の中で大切な言葉は何かを考えたり、大事な言葉を探しながら聞いたりする意識を育てる。全体で交流する際に、友達の意見の中で大切な言葉を探しながら聞くようにし、子供たちの発表後、どの言葉が大切な言葉だったか確認する。

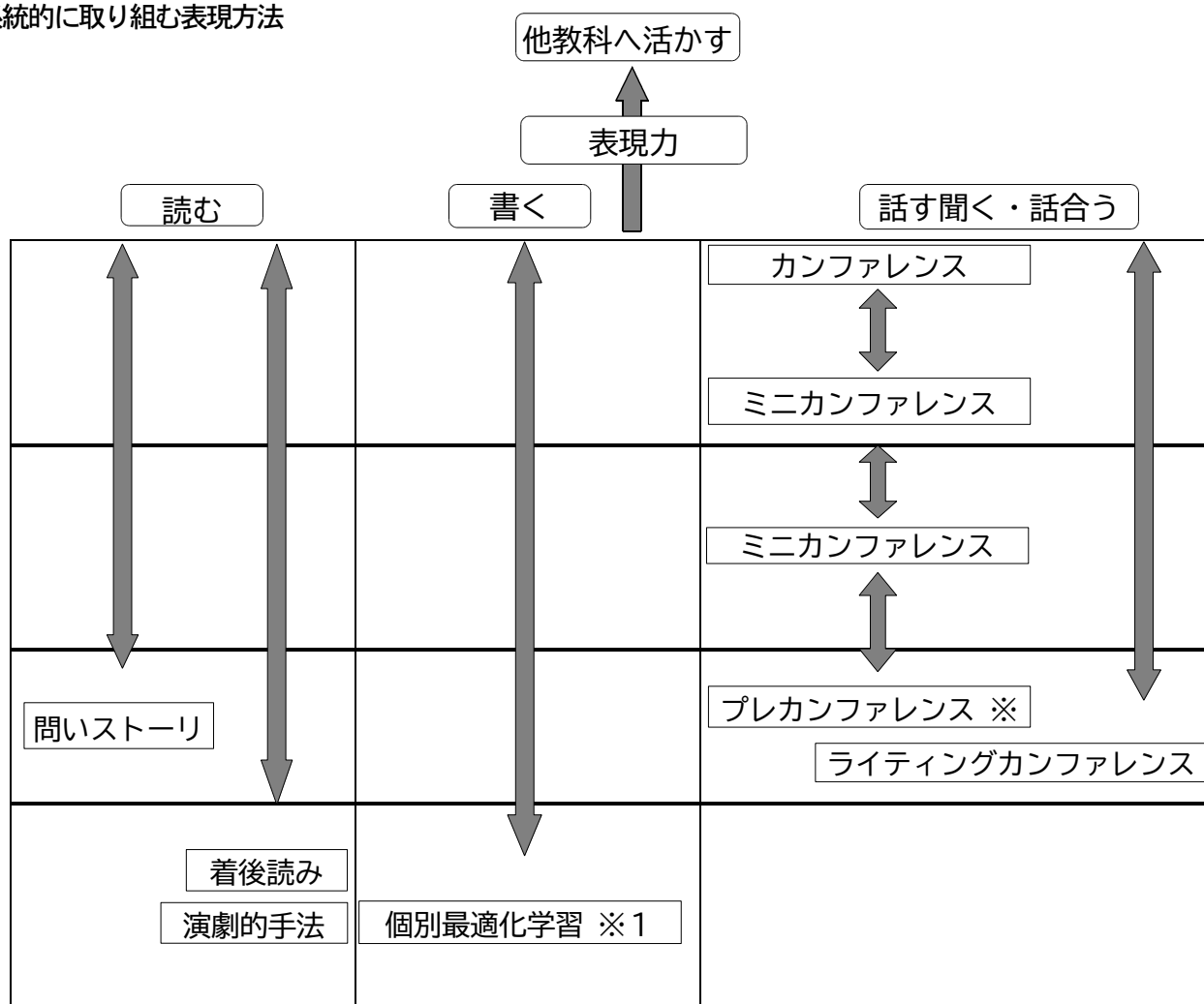
●基礎学力の定着

- ・ 根拠をもって話すことや読むことが苦手な子供がいる。低学年から教科書の言葉に着目し、場面の様子を読み取り、想像を広げたりする活動を取り入れる必要がある。
- ・ 辞書の活用によって、言葉の意味を理解できるようにする。着語読みの際は活用する。

内容を理解できるための手立ての充実として着語読み，演劇的手法，お話地図辞書の活用を増やす，カンファレンスの形態の柔軟性

VI 今年度の取り組み

○系統的に取り組む表現方法



- ・ 重点的に行うものに個別最適学習を必ず取り入れる。
- ・ 重点的に取り組むものとして部会では挙がっていなかったが，次年度は上記のものにも積極的に取り組むようにする。

※1 個別最適化学習とは，子供の能力や興味関心に合わせて，それぞれ活動が異なる学習である。例えば，視写絵本を作るという言語活動は同じでも，子供の能力に合わせて視写絵本が漫画絵本だったり，紙芝居絵本だったり，なるべく一人で学習できるように表現方法を選択できるようにする。低位の子供は，教師見本の真似をしても良い。ただし，学習して感じたこと，考えたことだけは，自分で書くようにする。

※2プレカンファレンス（例）2～3人組で、

- ①1分間語り
- ②1分間1人ずつ感想・質問

・カンファレンスは、時と場合によって、（1）と（2）を使い分けてもよい。

※3カンファレンス（1）

- ①語り（1分×3人）
- ②黙考（1分）（相違点を見つける）
- ③語り（1分×3人）
- ④黙考（1分）（主に共通する話題を探す）
- ⑤共有（1分）

カンファレンス（2）

- ①語り（1分×3人）
- ②黙考（1分）（相違点を見つける）
- ③フリートーク（3分）（質問や比較して気づいたことなど）
- ④黙考（1分）（自分の考えを再考）
- ⑤共有（1分）（自分の考えが変わった理由、変えなかった理由を話す）

特別支援部会	低学年部会	中学年部会	高学年部会
○読み取ったことを基に想像して表現する力 ・演劇的手法の活用 ・劇 ・個別最適化学習	○想いや考えを楽しく表現する力 ・演劇的手法の活用 ・視写絵本 ・プレカンファレンス ・個別最適化学習	○疑問をもち、自ら考え、伝え合う力 ・問い作り ・ICTの活用 ・ミニカンファレンス ・個別最適化学習	○想いや考えを分かりやすく表現し、深める力 ・イラストや漫画で表現 ・ライティングカンファレンス ・カンファレンス・フリートーク ・個別最適化学習

### ○語彙表の活用

- ・必ずクラスで大きくしたものを掲示し、すぐに活用できるようにする。さらに一人一人の教科書に語彙表を貼って活用する。
- ・使う語彙の意味は理解できるように、朝自習などに習った語彙を使って短文作りをするなど、語彙を正しく使えるようにする。
- ・作文単元や感想を書く時に使うようにする。

### ○辞書の活用

- ・4月の学年だよりで、辞書袋を用意するよう家庭にお願いし、辞書を机の横にかけ、すぐに活用できるようにする。
- ・国語だけでなく、他教科でも分からない言葉を調べられるように。
- ・辞書引きは、課題が早く終わった子供への次の課題として、隙間時間などに取り組みせると、良い。
- ・2年生での辞書引きでは、ベネッセに講座を行ってもらうことで意欲付けになり効果があった。食べ物、3文字のもの、黄色のものなど調べさせると喜んで取り組んでいた。辞書を使ったりとりも意欲的に取り組んだ。  
辞書を使った授業として、「ことばと」を取り入れると、楽しく言葉の意味が学べる。例えば、強そうな言葉を調べ、班で意味を根拠に誰の引いた言葉が強そうか話し合う。グループで一番強そうな言葉を選び、各班で発表し、クラスで強そうな言葉を決める。

### ○ICTを使った授業の取り組み

- 3年生：「町の行事について発表しよう」ロイロノートやパワーポイントを使って発表する。
- 4年生：「リーフレットで知らせよう」八千代市ごみ処理場のごみの分別などについて調べる。
- 5年生：「町じまんをすいせんしよう」町じまんとなるものの良さや課題、町とのつながりを調べ、ロイロノートにまとめ、推薦する。
- 6年生：「雪は新しいエネルギー」再生可能エネルギーについて調べる。

## ○音読発表の継続

- ・全校朝会（2，4，6年）で音読発表する。その他の学年は昼の放送で発表する。
- ・教科書の音読でも，詩でも学年裁量。（5分程度）

## ○授業研について

- ・全員が1回授業研を行うように。ただし，講師の先生の都合で，1時間しか参観できない場合は，学年1人でも可。
- ・学年で1単元行っても，学年で2単元行ってもよい。
- ・全体講師の先生の都合もあり，今年度のように2部会同じ日に実施します。

## ○環境整備

### 図書室

- ・先生のおすすめのコーナー継続。毎年お勧めの本を替えるのではなく，増えた先生分を追加していく。
- ・本を読まず，絵や写真を見て終わってしまう。子供がいる。図書時間に読書をするだけでなく，1時間の終わりに，読んだ中でお勧めの本を紹介するようにする。また，ビブリオバトルやブックトークする時間を設けると本の内容を読むようになる。内容にも触れて読書できるよう意図的に仕組む。
- ・借りる本は2冊に。1冊は活字のもの必ず選ぶようにする。

### 掲示板

- ・俳句と短歌の掲示板に子供の作った俳句や短歌を掲示

### 各学年の掲示板

- ・国語の言語活動で子どもが作ったものややったことなどを掲示していく。1年間の国語の学習を振り返る。

## VII 研究推進委員会について

- ・研究推進委員会で話し合ったことや決定事項を自分の学年に伝え，全校で共通理解を図る。
- ・招集は年間研究日程に基づくが，臨時の招集がある場合は予め連絡する。

## VIII その他（役割分担）

### 【研究主任（3）年，教務】

研究全体計画，講師日程調整，研究のまとめ，授業研究指導案冊子準備，指導案データ

### 【研究副主任（4）年】

校内国語環境整備（掲示板等）

→校内の国語科環境見直し，掲示板等の割り振りの再検討。内容についての計画，提案。

### 【研究推進委（5）年】

語彙表の作成

→全校で児童に配付して，いつでも言葉に触れられるようにする。使った言葉に○をつける。  
教室掲示物を用意する。

### 【研究推進委（ひまわり）年】

先生のお勧めの本資料作成

→先生のおすすめの本を集め，図書室に「おすすめの本コーナー」を作る。

## 【研究推進委(2)年】

国語資料室整備計画

→国語科の資料の整理整頓を計画し実行する。

## 【研究推進委(1)年】

昼の音読発表日程計画, 実施

→全校朝会で全学年1回, 発表できるように計画を立てる。

## 【研究推進委(6)年】

授業研究用紙準備・とりまとめ

→授業記録用紙, 協議会記録用紙, 反省記録用紙等準備, 指導案等保存

→各学年の指導案, 授業記録用, 協議会記録用, 各学年記録等を保管

### ◇ 指導案について

- ・各部会でカンファレンスなど重点的に行いたいと決めたものは, 必ず表現の工夫の中に入れる。
- ・表現の手立てがどんなことにつながっているか, 分かりやすくするため, 方向性のずれを少なくするため, 手立てを4つの項目にする。ただし, 指導案に必ず4つ入れる必要はない。

手立て1「物語の大体を捉える手立て」

例:(着語読み, 演劇的手法)

手立て2「読み取ったことを基に, 自分の想いや考えを表現する手立て」

例:(演劇的手法, イラスト, まんが, ミュージカルやリーフレットなどの言語活動)

手立て3「自分の考えを伝え, 深める手立て」

例:(ミニカンファレンス, カンファレンス・フリートーク)

手立て4「自分の活動を振り返る手立て」

例:(ライティングカンファレンス)



### 記載例1 (きつねのおきゃくさま)

#### ○表現の工夫

手立て2「読み取ったことを基に, 自分の想いや考えを表現する手立て」

##### ○子供の興味や実態に合わせた3種類の原稿を使用する

3種類の原稿を用意することで, より自分の想いを表現できるようにする。絵を使うことで表現し易くなる子どもには紙芝居を, 文章を使うことで, 表現し易くなる子どもには視写を, 吹き出しを使うことで表現し易くなる子どもには漫画を, というように子どもの実態に合わせて, 選択できるようにする。表現したものを使って読み聞かせの練習をすると, より登場人物になり切って音読することができるだろう。

繰り返し原稿を作っていくことで, 登場人物になりきってお話の世界に入ったり, 繰り返しのある話のおもしろさに気付いたりするようにしたい。

##### ○オリジナル場面を創作する

1. 2. 3場面と学習した後にオリジナル場面を創作する。学習していくうちに登場人物の大きさが変化していること, 登場人物の言動に変化があることに気付くだろう。読み取ったことを生かして, オリジナル場面が作れるよう, 視覚的にも場面の変化が分かるような掲示を作成したい。

## ○保護者に読み聞かせを発表する

子どもたちは、どの授業でも自分の頑張りを保護者に伝えたいという気持ちが強い。オリジナル絵本を保護者に読み聞かせをするという目的をもつことで、意欲的に取り組むだろう。また、読み聞かせした後は、保護者に感想を書いてもらう。そうすることで、次の学習への意欲を高めることができる。

## 記載例2 (一つの花)

### ○表現の工夫

#### 手立て1「物語の大体を捉える手立て」

##### ○「感想文」の構成を示す。形式に多様性を持たせる。

「一番心に残った言葉・文」「理由」「戦争や平和について自分はどう思うか」の三つの構成で感想文を書くことを示す。文章の量を調整した教師のモデルを用意し、取り組みたいコースを自分で選ぶことにする。追加で調べた情報、読んだ本同士の関連など、児童のアイディアで創意工夫していく。

#### 手立て2「読み取ったことを基に、自分の想いや考えを表現する手立て」

##### ○自分の考えを持ったり、話し合いの参考にしたりできるように、可視化ツールを用いる。

読みの問いを設定したり、個々の考えを共有したりする際に、一人一台タブレットを使用する。ロイロノートなど、可視化ツールを積極的に用いる。友達の考えがわかり、自分の考えを持つときの助けとしたい。

#### 手立て3「自分の考えを伝え、深める手立て」

##### ○互いの考えの良さを見つける時間を設定する。

読みの問いについて考える学習では、ミニカンファレンスを行う。感想文を書く活動では、「解決！ズロリタイム」とし、感想文を書いている途中で、交流を設ける。共感したり、わかりやすいと感じたりした表現をメモし合い、自分の感想文へ生かす。